

平成26年第7回庄原市議会定例会

一般質問通告者  
及び  
質問事項

12月15日~12月17日

質問順位

- |          |         |
|----------|---------|
| 1. 近藤久子  | 2. 松浦昇  |
| 3. 宇江田豊彦 | 4. 徳永泰臣 |
| 5. 谷口隆明  | 6. 政野太  |
| 7. 五島誠   | 8. 福山権二 |
| 9. 林高正   |         |

庄原市議会

# 平成26年12月定例会 一般質問

順位	質問議員	質問項目	ページ
1	近藤久子	いつでも・どこでも・だれでも学べる生涯学習の振興施策について	1
		がん検診について	2
2	松浦 昇	要支援者の介護保険サービスを受ける権利を守れ	3
		緊急の対策として「米価暴落の支え」と「福祉灯油実施」で市民の生活を守れ	5
3	宇江田豊彦	庄原いちばん基本計画の達成状況について	6
		小中学校における教職員の超過勤務について	6
		民主的な学校教科書採択について	8
4	徳永泰臣	人口減少に対する本市の対応について	9
		有害鳥獣（野猿）対策について	10
5	谷口隆明	平成27年度予算編成の基本方針について	11
		人口定住対策と地域づくりについて	11
		木の駅プロジェクトについて	11
6	政野 太	本市の教育施策について	12
		本市の林業振興について	12
7	五島 誠	長期総合計画について	13
		庄原いちばん基本計画について	13
		保育所について	13
		子育て政策から子育て政策へ	13
		文化芸術グローバル化推進事業について	13
8	福山権二	指定管理について	14
9	林 高正	地域おこし協力隊の現状について	15
		バイオマス発電について	15
		職員の自己研修制度創設について	15

## 一般質問日程

12月 15日（月）近藤久子・松浦 昇・宇江田豊彦

12月 16日（火）徳永泰臣・谷口隆明・政野 太

12月 17日（水）五島 誠・福山権二・林 高正

順位	1	質問者	近藤 久子
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
1. いつでも・どこでも・だれでも学べる生涯学習の振興施策について	<p>改正された教育基本法第3条の中に、「生涯学習の理念」が新設されている。本市の教育行政施策の方針においても、学校教育と生涯学習は共に重点施策とされている。</p> <p>平成23年1月に出された広島県生涯学習審議会からの答申も踏まえ、以下の点について伺う。</p> <p>(1) 社会や地域の現代的課題に関する学習機会の提供について、各自治振興区への生涯学習委託事業の成果と課題解決に向けた方策は。</p> <p>(2) 生涯学習・社会教育を推進する人材の育成・確保対策は。</p> <p>(3) 自治振興センターを拠点とした学校、家庭、地域の連携・協力に関する対策は。</p> <p>(4) 人権教育のより有効な推進策について。</p> <p>(5) 文化財の保護管理及び保存整備の推進状況は。</p> <p>(6) 「庄原市博物館・資料館の新たな在り方基本計画」に基づく将来像の実現に向けた取り組みの進捗状況は。</p> <p>(7) 健康寿命を延ばし、医療費負担の軽減や介護予防、地域コミュニティの創出を図る視点を重視したスポーツの普及活動を行うべきでは。</p>		教育長

順位	1	質問者	近藤 久子
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
2. がん検診について	<p>今日、日本人の2人に1人は「がん」になると言われ、また、働く世代の25歳から59歳でがんになる人も増加している。「がん検診へ行こうよキャンペーン広島」において様々な取り組みが実施されているが、本市における現状等を以下のとおり伺う。</p> <p>(1) がん検診の受診率アップに向けた今後の取り組み方策は。</p> <p>-----</p> <p>(2) がん患者の就労支援の取り組み状況について。</p> <p>-----</p> <p>(3) 乳がんの罹患率は、24人に1人から14人に1人へと増加している。早期発見に向けた受診環境の整備がさらに必要と考えるが、具体的な方策は。</p>		市長

順位	2	質問者	松浦 昇	
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者	
1. 要支援者の介護保険サービスを受ける権利を守れ	<p>今年6月、安倍自公政権は、国民の介護、医療制度を充実せよとの声を聞かず、医療介護総合確保推進法を強行成立させた。この法律は、多くの高齢者を介護サービスの対象から除外し、入院患者の追い出しをさらに強化するなど、公的介護、医療保障を土台から切り崩す大改悪である。</p> <p>国は本年7月、市町村が新総合事業を実施する際の指針となるガイドライン（案）を示し、次の3つの手法で給付費の削減を指示している。その内容は、①安上がりのサービスを持ち込む②介護を受けさせない「水際作戦」③介護ハズシが容易になる卒業作戦である。</p> <p>厚生労働省は今後、同案に対する自治体の意見を集め、今年度末までに成案を策定するとしているが、次の4点について所見を伺う。</p> <p>(1) 今後において、医療介護総合確保推進法は、市民の医療・介護の充実に役立つと考えているか、基本認識を問う。</p> <p>-----</p> <p>(2) 介護予防、生活支援サービス事業においては、「専門的サービス」とボランティアなどによる「多様なサービス」が用意される。新規利用者には、基本的に「多様なサービス」を割り振り、いったん「専門的サービス」を割り振った人にも一定期間後には、「多様なサービス」に転換するよう指示している。</p>		市長	

順位	2	質問者	松浦 昇
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
1. 要支援者の介護保険サービスを受ける権利を守れ	<p>安上がりなサービスへの転換になるのではないかと考えるがいかに。</p> <p>(3) 窓口担当者の判断で要介護認定の省略が可能となり、要支援相当と判断した場合、基本チェックリストの25項目で判断することとなる。現場では、認定のたびに要支援と要介護を行き来する人もでる。</p> <p>要介護認定の省略と基本チェックリストの活用は、受給権侵害と状態悪化を生み出しかねないと考えられ、こうしたことは、水際作戦の拡大につながるのではないか。</p> <p>(4) このガイドライン(案)は、新規利用者に自立を強制しかねないと考える。先行自治体では、新総合事業の適用となった人は、「かがめるようになる」「一人で買い物に行けるようになる」などの目標課題を持たされ、行政側から「目標達成」、「状態改善」と見なされると、単価の低いサービスへの転換やサービスの「終了」、「卒業」を求められる例もある。その司令塔が地域ケア会議とも言われているが、どのように考えているか。</p>		市長

順位	2	質問者	松浦 昇
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
2. 緊急の対策として「米価暴落の支え」と「福祉灯油実施」で市民の生活を守れ	<p>(1) 日本共産党国会議員団は、今年度の米価暴落の問題で、9月24日、農林水産大臣へ過剰米対策や米の直接支払交付金の半減措置の撤回など、農家の経営対策をとることを求めた。</p> <p>本市においては、平成22年9月議会において、米に対する補助金をJA出荷については30キログラム当たり350円、さらに同年11月には前述以外の出荷に対し、30キログラム当たり200円を支援する予算が可決され、総額1億6,000万円を交付している。今年の米価は、コシヒカリで30キログラム当たり4,700円と、当時の価格5,300円を下回っており、また、天候不順で小米が多く収穫量も大幅に落ちている。</p> <p>補助金の支援と無利息融資制度の創設が必要と考えるが、所見を伺う。</p> <hr/> <p>(2) 円安による物価上昇と増税不況が低所得層を襲っており、冬を暖かく過ごせるよう、かねてより要望している福祉灯油制度を実施されるよう強く求め、所見を伺う。</p>		市長

順位	3	質問者	宇江田 豊彦
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
1. 庄原いちばん基本計画の達成状況について	<p>市長就任以来、庄原いちばんをめざし、昨年11月13日に「庄原いちばん基本計画」を明らかにされた。</p> <p>第1期目の計画期間は残すところ4カ月となり、第2期へ向けて具体的な予算についても検討されているところであるが、以下の点について伺う。</p> <p>(1) 市長の実感として、今現在における「庄原いちばん基本計画」の手応えについてどのように感じているか。</p> <p>-----</p> <p>(2) 特に課題としてとらえているのはどのような点か。</p> <p>-----</p> <p>(3) 今後、長期総合計画も策定するとの見解を示されているが、「庄原いちばん基本計画」との関連はどのように考えているか。</p>		市長
2. 小中学校における教職員の超過勤務について	<p>昨年の12月議会においても質問をした小中学校教職員の超過勤務の削減について伺う。</p> <p>1998年(平成10年)、文部科学省、広島県教育委員会によって進められた是正指導により、学校現場の多忙化が進み、今日においても解決されていない。これまで市教育委員会も解決へ向けた取り組みを行うも、いまだに大きな課題を残している。</p> <p>教育条件整備の中でも最も大きなものは教職員であるとの認識から、憂慮すべき課題と考えている。市教育委員会によるこの1年の取り組みを通してどのように改善され、今後</p>		教育長



順位	3	質問者	宇江田 豊彦	
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者	
2. 小中学校における教職員の超過勤務について	<p>どのような取り組みを進めるのか、以下具体的に伺う。</p> <p>(1) 昨年に比べ、どのように改善がなされているのか。また、実態を認識する中で、分析はされているのか。</p> <p>-----</p> <p>(2) 職員の退校が遅くなると、校長は指導力が問われると思ひ、早く帰るようにより強く指導している。よって、各学校現場においては、持ち帰りの仕事が多くなっていると思うが、どのように把握しているのか。</p> <p>また、土日に出て仕事をしている実態があると思うが、どのようになっているのか。</p> <p>-----</p> <p>(3) 入校・退校記録について、校長に強く指導されるあまり、職員が自主規制し、実際よりも短く書いている実態があると聞か、市教育委員会は把握しているのか。</p> <p>また、管理職によっては、入校・退校記録を鉛筆で記入するように指導すると聞か、市教育委員会はどうか考えているのか。</p> <p>入校・退校記録票について、広島県教育委員会は公簿としているが、市教育委員会としては公簿として位置づけけないのか。</p> <p>-----</p> <p>(4) 特定事業主行動計画から見た実態と課題について、どのように考えているのか。</p>		教育長	

順位	3	質問者	宇江田 豊彦
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
3. 民主的な学校 教科書採択に ついて	<p>来年度は、中学校の教科書採択が行われる 予定となっている。</p> <p>(1) その中で、本年6月議会においても、 教科書採択の教育委員会議の傍聴を求める 質問をし、答弁として「今までは、公開そ のものをしていなかったが、審査の内容に ついて議事録によって公開する」とのこと であったが、記録を公開するのであれば、 その場の空気感も伝わるので、傍聴を許可 すべきと思うが、考えを伺う。</p> <hr/> <p>(2) 「採択権者の責任において、採択に係る 公正確保の観点から、適正かつ自由闊達な 意見交換ができること、また、採択決定ま での形成過程審議は、静ひつな環境の中で 議論する必要がある」と答弁されているが、 傍聴者がいると、なぜ審議できないのか再 度伺う。</p>		教育長

順位	4	質問者	徳永 泰臣
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
1. 人口減少に対する本市の対応について	<p>本年5月、日本創成会議・人口減少問題検討分科会が、2040年（平成52年）には49.8%の市町村で、20歳から39歳の女性人口が5割以上減少し、推計対象の約1,800市町村のうち523市町村で、人口が1万人を下回り、消滅する可能性が高いという推計を公表した。</p> <p>本市も合併以来、人口が急速に減少しており、この10年間少子化対策をはじめ、定住対策など、さまざまな対策を講じてきたが、結果として人口減少は想像以上に進んでいる。</p> <p>（1）この公表を踏まえ、人口減少が本市に与える影響について改めて伺う。</p> <p>-----</p> <p>（2）年齢別の人口構成比率の変化が、今後の市政運営に与える影響について伺う。</p> <p>-----</p> <p>（3）本市が現在考えている、今後の人口減少対策について伺う。</p>		市長

順位	4	質問者	徳永 泰臣
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
2. 有害鳥獣（野猿）対策について	<p>本市においては、過疎化・高齢化が進み、農地や森林の管理が行き届かなくなっている。耕作放棄された農地は荒地となり、近年、野猿が人里におりてきて、農作物を荒らす被害が拡大している。</p> <p>イノシシの被害については、防護柵や箱わななどにより、一定の効果が出ていると聞いているが、野猿については、農作物への被害のほか、子どもや高齢者などへの人的被害も懸念される。早急に効果的な被害防止策が必要と考える。</p> <p>(1) 野猿の生息数・被害状況をどのように把握されているのか伺う。</p> <p>-----</p> <p>(2) 現在の本市における野猿に対する有害鳥獣捕獲班の取り組み状況について伺う。</p> <p>-----</p> <p>(3) これまでの駆除依頼申請を受ける中で、今後の有効な防止策を伺う。</p>		市長

順位	5	質問者	谷口 隆明
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
1. 平成 27 年度 予算編成の基 本方針につい て	<p>(1) 平成 25 年度決算はどのように反映されているのか。平成 27 年度予算編成の特徴を伺う。</p> <p>(2) 予算編成において、国・県との事前の情報交換や情報収集とあるが、具体的にはどのように行われているのか伺う。</p> <p>(3) 重点戦略プロジェクトの平成 27 年度及び今後の位置づけを伺う。</p>		市長
2. 人口定住対策 と地域づくり について	<p>(1) 島根県中山間地域研究センターの研究成果を活用するなどして、本市の定住対策の具体的戦略を立てるべきではないか。</p> <p>(2) 定住対策の先進地に共通するのは、社会教育・公民館活動が大きな役割を果たしていることである。住民は「顧客」ではない。住民の主体的な力を引き出すため、「住民一人ひとりの人生の質を高められる、持続可能な村づくり(長野県阿智村の総合計画の基本理念)」といった視点が大切だと考えるが、市長の見解を伺う。</p>		市長
3. 木の駅プロジ ェクトについ て	<p>現在までの試行の成果と課題は何か。今後どのように展開させる考えか伺う。</p>		市長

順位	6	質問者	政野 太
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
1. 本市の教育施策について	(1) 第2期庄原いちばん基本計画における教育施策についての考えを伺う。		市長 教育長
	(2) 改正された地方教育行政法の来年度施行に伴う本市の教育委員会組織の見直しに当たり、見解を伺う。 ①本市の教育の振興に関する施策の大綱策定について、その理念をどう考えるのか。 ②教育委員の選任はどのようにされるのか。		
	(3) 教育長が着任され1年を迎えようとする中で、改めて教育における本市の現状と課題に関する認識を伺う。		
	(4) 本市の教育行政施策の方針について、基本方針に「地域全体で子どもを育てるために学校・地域・家庭が連携・協力できる体制づくり」とあるが、その具体的な施策の進捗状況を伺う。		
2. 本市の林業振興について	(1) 第1期庄原いちばん基本計画の「木の駅プロジェクト」について、本事業に期待する効果について伺う。		市長
	(2) 本市の重要課題である林業振興について、森林・林業が持つ多面的な機能を市民の視点から検討していくことも、林業の活性化のみならず本市の活性化につながると思うが、考えを伺う。		

順位	7	質問者	五島 誠
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
1. 長期総合計画 について	現在、平成28年度からの庄原市長期総合計画を策定中であるが、改めてその策定目的や目標、策定するにあたっての意気込みと進捗状況について伺う。		市長
2. 庄原いちばん 基本計画につ いて	<p>庄原いちばん基本計画の第2期計画について以下の点を伺う。</p> <p>(1) 今年度、庄原いちばん談議と銘打って新たな広聴事業を実施されたが、その活用やフォローについて。</p> <p>-----</p> <p>(2) 第2期計画の重点施策というべきものに、どのようなものを考えているのか。</p>		市長
3. 保育所につ いて	第3子の保育料無料化や、来年度からの子ども子育て支援新制度などにより、保育ニーズの拡大などが考えられるが、保育所のキャパシティ、保育士の確保などについて、十分に対応できる体制にあるのか伺う。		市長
4. 子育て政策か ら子育て政策 へ	子育て支援は、子どもを育てる保護者などへの支援がクローズアップされがちであるが、それと同時に子どもたちがどう育っていくか、「子育て」についての政策も大変重要と考える。本市における所見を伺う。		市長
5. 文化芸術グロ ーカル化推進 事業について	来年度、文化庁の事業で「文化芸術グローカル化推進事業」という地域の文化資源を活用した計画的な文化芸術活動などを支援する事業がある。この事業を活用して、文化芸術による地域活性化の取り組みをすればと考えるが、所見を伺う。		教育長

順位	8	質問者	福山 権二
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
1. 指定管理について	<p>(1) 指定管理者によって管理運営させている保育所において、食物アレルギー誤食が発生し、本市はその総括から対応マニュアルを作成し、改善に取り組んだ。新対応マニュアルによる現場への指導状況について伺う。</p> <p>(2) 食物アレルギー誤食対策の新対応マニュアル活用以後の、この種の事故の発生状況について伺う。</p> <p>(3) 全保育所調査結果において、19件の薬の飲ませ間違い、飲ませ忘れが報告されている。指定管理保育所におけるこの種の再発防止対策は、どのように実施されているのか。また、その成果について伺う。</p> <p>(4) 指定管理者の募集要項や仕様書に、新たに改善内容を組み入れるとの市長答弁は、どのように実施されているのか伺う。</p> <p>(5) 公的施設を指定管理者制度により管理運営する場合、指定管理者が雇用する労働者の賃金支払い状況を詳細に把握することができる契約に変更すべきと考えるが、見解を伺う。</p> <p>(6) 指定管理施設である庄原市総合体育館の指定管理者を公募していない理由は何か伺う。</p>		市長



順位	9	質問者	林 高正
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
1. 地域おこし協力隊の現状について	<p>本年4月より、5名の地域おこし協力隊員が本市に採用となったが、どういったことに取り組んでいるのか知る由もない。恐らく、苦戦しているのではないかと思うが、現状について伺う。</p>		市長
2. バイオマス発電について	<p>今回で3度目のバイオマス発電に関する一般質問である。先月、会派「きずな」で、秋田県能代市と仙北市のチップ発電施設、岩手県雫石町のバイオガス発電施設の視察研修を実施した。今年の3月議会での市長答弁では、「良い考えだから、研究してみたい」という趣旨の発言であったと思うが、本市での取り組み状況について伺う。</p>		市長
3. 職員の自己研修制度創設について	<p>委員会視察や会派視察において調査した先進的取り組みなどを執行者に説明しても、担当課の職員が同行していないため、一定の理解は得られても、「よし、やろう」といった取り組みになりにくいのが現状である。</p> <p>本市議会では、議員一人当たりの政務活動費が月額3万円あるように、職員の自己研修制度の創設を提案する。まちづくりに資する提案を前提とした視察を職員が行う場合、一定の経費負担を認め、年齢条件は、40歳以下とするものである。</p>		市長